

科目番号	53	科目名	生命科学概論(M)		
英文科目名	Introduction to Life Sciences (M)				
大学・短期大学名	立命館			大学	
連絡先	〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1				
	TEL :	077-561-4972	FAX :	077-561-3935	
担当教員	石水 毅 ほか8名 (生命科学部 教授)				
実施方法	対面授業 遠隔授業 対面・遠隔併用				
教室名	コラーニングハウスI C101	会場	立命館大学BKC(びわこ・くさつ)キャンパス		
授業期間	2024年4月8日(月)～2024年7月20日(土) <毎週月曜日> 5 時限・講時 16 : 20 ~ 17 : 50 ※7月20日(土)は月曜授業日。				
超過時の選考方法	出願票に記載の志望理由による選考				
成績評価方法	定期試験(筆記)				%
	レポート試験(期末)				%
	平常点(出席・授業態度)	100			%
	その他()				%
別途負担費用	なし				あり()円
その他特記事項					
<講義概要・到達目標>					
【授業の概要と方法】 21世紀は『生命科学』の世紀といわれる。これは、20世紀に急速に蓄積した“生物に対する知識”を基盤にして、21世紀には人類の福祉に役立つ技術が開発され、実用化されるであろうことへの期待の表われである。この分野は人間を含む生物(生命体)を研究・実験の対象にするものであり、研究者ならびに技術者には高い倫理観が求められる。本講義は、生命科学部での導入科目として位置づけ、生命科学部の各学科における学問の形態や技術動向等について概観するとともに、研究者・技術者の役割と責任についても講義する。なお、幅広い話題を提供するために、オムニバス形式の講義とする。					
【到達目標】 生命科学研究の現場にいる人たちの研究動機およびに社会から求められる規範に触れることにより、どのように問題を理解し対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。					
【成績評価方法】 ・科目全体としての検証テストは行わない ・レポート課題を適宜提示する ・小テストを適宜実施する ・質疑応答等、講義への積極的な参加を評価に加味する					
【授業外学習の指示】 予習: 事前に指示された参考書を読んでおくこと 復習: 講義時間中に指示された参考書を読むこと 30分を目安としてこれら予習復習を行うこと					
【受講および研究に関するアドバイス】 色々なことに興味を持つこと					
<授業スケジュール>					
回	月日	テーマ・キーワード			
1	4月8日	石水毅:「授業の概要と導入」			
2	4月15日	森脇健介:「生命科学と社会」1			
3	4月22日	森脇健介:「生命科学と社会」2			
4	4月29日	桑田繁樹:「応用化学関連テーマ」1			
5	5月13日	桑田繁樹:「応用化学関連テーマ」2			
6	5月20日	武田陽一:「生物工学関連テーマ」1			

7	5月27日	武田陽一:「生物工学関連テーマ」2
8	6月3日	木津川尚史:「生命情報学関連テーマ」1
9	6月10日	寺内一姫:「生命情報学関連テーマ」2
10	6月17日	早野俊哉:「生命医科学関連テーマ」1
11	6月24日	早野俊哉:「生命医科学関連テーマ」2
12	7月1日	中川浩行:「工学倫理」1
13	7月8日	中川浩行:「工学倫理」2
14	7月15日	宮崎栄二:「特許」
15	7月20日	石水毅:「授業の統括」

<教科書・参考書>

【教科書】

特に定めない。

【参考書】

<1回目講義用 >

『大学生になるきみへ: 知的空間入門』中山茂著 (岩波書店 978-4-0050-0452-2)

<8回目講義用 >

『核DNA解析でたどる 日本人の源流』斎藤成也著 (河出書房新社 978-4309253725)

<13-14回講義用>

『技術者による実践的工学倫理: 先人の知恵と戦いから学ぶ』中村収三・近畿化学協会工学倫理研究会共編著 (化学同人 978-4-7598-1557-3)

<15回目講義用 >

『植物はなぜ薬を作るのか』齊藤和季著 (文書新書 978-4166611195)

『植物バイオテクノロジーでめざすSDGs変わる私たちの食と薬』小泉望・加藤晃著 (化学同人 978-4759820867)

【参考になるwwwページ】

適宜、紹介する。